

共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の  
第3期中期目標期間における期末評価結果(国立大学)

令和3年10月29日

1. 評価区分ごとの期末評価結果(総括表)

評価区分 (期末評価結果)		計/専門 委員会等 名	理工学系 (大型設 備利用 型)	理工学系 (共同研 究型)	医学・生 物学系 (医学系)	医学・生 物学系 (生物学 系)	人文・社 会科学系	異分野融 合系	国際共同 利用・共 同研究拠 点
S	拠点としての活動が活発に行われており、共同利用・共同研究を通じて特筆すべき成果や効果が見られ、関連コミュニティへの貢献も多大であったと判断される。	18	3	4	3	2	2	1	3
A	拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティへの貢献もあり、今後も、共同利用・共同研究拠点を通じた成果や効果が期待される。	39	5	10	9	6	3	3	3
A-	拠点としての活動は概ね順調に行われているが、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が期待される。	17	4	5	3	2	2	1	0
B	拠点としての活動は行われているものの拠点の規模等と比較して低調であり、作業部会からの助言や関連コミュニティからの意見等を踏まえた適切な取組が必要と判断される。	5	0	1	1	2	1	0	0
C	拠点としての活動が十分とは言えず、認定の基準に適合していない状況にあると判断される。(なお、「C」の評定は、評価結果の決定後、認定の取消についての審議において考慮される。)	0	0	0	0	0	0	0	0
計		79	12	20	16	12	8	5	6

## 2. 評価対象拠点及び各専門委員会等における評価区分(期末評価結果)一覧

### ✓ 理工学系(大型設備利用型)(12拠点)

通し 番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
1	東北大学	電子光物理学研究センター	電子光物理学研究拠点	A	6
2	筑波大学	計算科学研究センター	先端学際計算科学共同研究拠点	S	7
3	東京大学	素粒子物理国際研究センター	最高エネルギー素粒子物理学研究拠点	S	8
4	東京大学	物性研究所	物性科学研究拠点	S	9
5	京都大学	複合原子力科学研究所	複合原子力科学拠点	A	10
6	京都大学	生存圏研究所	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点	A-	11
7	大阪大学	レーザー科学研究所	レーザーエネルギー学先端研究拠点	A	12
8	広島大学	放射光科学研究センター	放射光物質物理学研究拠点	A-	13
9	高知大学	海洋コア総合研究センター	地球掘削科学共同利用・共同研究拠点	A-	14
10	九州大学	応用力学研究所	応用力学共同研究拠点	A	15
11	佐賀大学	海洋エネルギー研究センター	海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点	A-	16
12	北海道大学	情報基盤センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点	A	17
	東北大学	サイバーサイエンスセンター			
	東京大学	情報基盤センター【中核施設】			
	東京工業大学	学術国際情報センター			
	名古屋大学	情報基盤センター			
	京都大学	学術情報メディアセンター			
	大阪大学	サイバーメディアセンター			
	九州大学	情報基盤研究開発センター			

### ✓ 理工学系(共同研究型)(20拠点)

通し 番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
13	北海道大学	低温科学研究所	低温科学研究拠点	A	18
14	北海道大学	触媒科学研究所	触媒科学研究拠点	A	19
15	東北大学	電気通信研究所	情報通信共同研究拠点	A	20
16	東北大学	流体科学研究所	流体科学国際研究教育拠点	A	21
17	千葉大学	環境リモートセンシング研究センター	環境リモートセンシング研究拠点	A-	22
18	東京大学	空間情報科学研究センター	空間情報科学研究拠点	A	23
19	東京大学	地震研究所	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点	A	24
20	東京工業大学	科学技術創成研究院フロンティア材料研究所	先端無機材料共同研究拠点	A	25
21	金沢大学	環日本海域環境研究センター	越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点	A-	26
22	名古屋大学	宇宙地球環境研究所	宇宙地球環境研究拠点	S	27
23	名古屋大学	未来材料・システム研究所	革新的省エネルギーのための材料とシステム研究拠点	A-	28

通し 番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
24	京都大学	エネルギー理工学研究所	ゼロエミッションエネルギー研究拠点	A	29
25	京都大学	基礎物理学研究所	理論物理学研究拠点	S	30
26	京都大学	防災研究所	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点	A	31
27	大阪大学	接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点	A	32
28	岡山大学	惑星物質研究所	地球・惑星物質科学研究拠点	A-	33
29	愛媛大学	地球深部ダイナミクス研究センター	先進超高圧科学研究拠点	S	34
30	九州大学	マス・フォア・インダストリ研究所	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点	A-	35
31	北海道大学	電子科学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点	S	36
	東北大学	多元物質科学研究所【中核施設】			
	東京工業大学	科学技術創成研究院化学生命科学研究所			
	大阪大学	産業科学研究所			
	九州大学	先導物質化学研究所			
32	北海道大学	北極域研究センター【中核施設】	北極域研究共同推進拠点	B	37
	情報・システム研究機構	国立極地研究所国際北極環境研究センター【連携施設】			
	海洋研究開発機構	北極環境変動総合研究センター【連携施設】			

### ✓ 医学・生物学系(医学系)(16拠点)

通し 番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
33	北海道大学	遺伝子病制御研究所	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染症の先端的研究拠点	A	38
34	北海道大学	人獣共通感染症リサーチセンター	人獣共通感染症研究拠点	A	39
35	東北大学	加齢医学研究所	加齢医学研究拠点	A	40
36	群馬大学	生体調節研究所	内分泌・代謝学共同研究拠点	A-	41
37	千葉大学	真菌医学研究センター	真菌感染症研究拠点	A	42
38	東京医科歯科大学	難治疾患研究所	難治疾患共同研究拠点	A	43
39	新潟大学	脳研究所	脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点	A	44
40	金沢大学	がん進展制御研究所	がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点	A	45
41	京都大学	ウイルス・再生医科学研究所	ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点	A-	46
42	京都大学	ウイルス・再生医科学研究所	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点	B	47
43	大阪大学	微生物病研究所	微生物病共同研究拠点	S	48
44	徳島大学	先端酵素学研究所	酵素学研究拠点	A-	49
45	九州大学	生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点	S	50
46	長崎大学	熱帯医学研究所	熱帯医学研究拠点	A	51
47	熊本大学	発生医学研究所	発生医学の共同研究拠点	S	52
48	広島大学	原爆放射線医科学研究所【中核施設】	放射線災害・医科学研究拠点	A	53
	長崎大学	原爆後障害医療研究所			
	福島県立医科大学	ふくしま国際医療科学センター			

### ✓ 医学・生物学系(生物学系)(12拠点)

通し番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
49	帯広畜産大学	原虫病研究センター	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点	A	54
50	筑波大学	つくば機能植物イノベーション研究センター 遺伝子実験センター	形質転換植物デザイン研究拠点	B	55
51	東京大学	大気海洋研究所	大気海洋研究拠点	S	56
52	京都大学	生態学研究センター	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点	A	57
53	京都大学	生命科学研究所附属放射線生物研究センター	放射線生物学の研究推進拠点	B	58
54	京都大学	野生動物研究センター	絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点	A	59
55	京都大学	霊長類研究所	霊長類学総合研究拠点	A-	60
56	大阪大学	蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点	S	61
57	鳥取大学	乾燥地研究センター	乾燥地科学拠点	A	62
58	岡山大学	資源植物科学研究所	植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点	A	63
59	愛媛大学	沿岸環境科学研究センター	化学汚染・沿岸環境研究拠点	A-	64
60	琉球大学	熱帯生物圏研究センター	熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点	A	65

### ✓ 人文・社会科学系(8拠点)

通し番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
61	北海道大学	スラブ・ユーラシア研究センター	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	A-	66
62	東京大学	社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター	社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点	B	67
63	東京大学	史料編纂所	日本史料の研究資源化に関する研究拠点	S	68
64	東京外国語大学	アジア・アフリカ言語文化研究所	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点	A	69
65	一橋大学	経済研究所	「日本および世界経済の高度実証分析」拠点	S	70
66	京都大学	経済研究所	先端経済理論の国際的共同研究拠点	A	71
67	京都大学	人文科学研究研究所	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点	A	72
68	大阪大学	社会経済研究所	行動経済学研究拠点	A-	73

### ✓ 異分野融合系(5拠点)

通し番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
69	京都大学	東南アジア地域研究研究所	地域情報資源の共有化と関連型地域研究の推進拠点	A-	74
70	京都大学	東南アジア地域研究研究所	東南アジア研究の国際共同研究拠点	A	75
71	東京医科歯科大学	生体材料工学研究所【中核施設】	生体医歯工学共同研究拠点	S	76
	東京工業大学	科学技術創成研究院未来産業技術研究所			
	静岡大学	電子工学研究所			
	広島大学	ナノデバイス・バイオ融合科学研究所			
72	名古屋大学	低温プラズマ科学研究センター	低温プラズマ科学研究拠点	A	77

通し 番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
73	弘前大学	被ばく医療総合研究所	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同 研究拠点	A	78
	福島大学	環境放射能研究所			
	筑波大学	アイソトープ環境動態研究センター【中核施設】			
	日本原子力研究開発機構	福島研究開発部門福島研究開発拠点廃炉 環境国際共同研究センター【連携施設】			
	量子科学技術研究開発機構	量子医学・医療部門高度被ばく医療センター 福島再生支援研究部【連携施設】			
	国立環境研究所	福島支部【連携施設】			

✓ **国際共同利用・共同研究拠点(6拠点)** 【共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会において審議】

通し 番号	大学等名	研究施設名(期末評価時点)	国際共同利用・共同研究拠点名	評価区分 (期末評価結果)	ページ 番号
74	東北大学	金属材料研究所	材料科学国際共同利用・共同研究拠点	S	79
75	東京大学	医科学研究所	基礎・応用医科学の推進と先端医療の実現 を目指した医科学国際共同研究拠点	S	80
76	東京大学	宇宙線研究所	宇宙線国際研究拠点	S	81
77	京都大学	化学研究所	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先 端・学際グローバル研究拠点	A	82
78	京都大学	数理解析研究所	数学・数理学の国際共同研究拠点	A	83
79	大阪大学	核物理研究センター	国際サブアトム科学共同研究拠点	A	84

### 3. 期末評価結果

通し番号	1
共同利用・共同研究拠点名	電子光物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(電子光物理学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>高エネルギー電子加速器による特徴ある量子ビームを用いた電子光物理学の研究拠点として、電子散乱や自由電子レーザーの利用や技術開発をはじめ、原子核物理、化学から生命まで幅広い分野において、大型加速器と相補的な大学附置の加速器の特徴である拠点プラットフォームを生かした様々な共同研究・共同利用が行われ、研究成果を上げていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、研究成果の論文発表の拡充や、共同利用の応募増に向けた海外からの認知度向上のための取組、人事の流動性の向上を含めた女性研究者や外国人研究者の雇用増加に向けた一層の取組とともに、小規模でありかつ大学附置の加速器施設を有する拠点として更に発展していくための具体的な方向性の検討が望まれる。</p>

通し番号	2
共同利用・共同研究拠点名	先端学際計算科学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(計算科学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>高性能の計算機開発とそれを用いた計算科学の推進を素粒子・宇宙・原子核・物性・生命・気象といった広い分野の研究を学際的に進めるとともに、独自のシステムやソフトウェア、ライブラリを開発し共同利用に供することで国内外の計算機科学の発展に寄与しており、更には医科学研究などにおける研究成果は著しく、共同利用・共同研究活動が活発に行われていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、データ駆動型研究、HPCI 利用、ハイブリッド型の大型計算機使用等の在り方について、より学会等との連携を通して国際的・学際的に検討することが期待されるとともに、女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティや若手研究者人材の流動性の向上に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	3
共同利用・共同研究拠点名	最高エネルギー素粒子物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(素粒子物理国際研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>素粒子物理学研究の中核である欧州 CERN の世界唯一の先端加速器 LHC を用いた国際共同実験を牽引し、国際共同研究において我が国からの参加の窓口機能を果たしている。また、物理解析の中核の一つである地域解析センターを運営するなど当該分野における我が国の中核的拠点として役割を果たすとともに、更に優れた研究成果の発表、外部資金の獲得、共同研究課題の随時公募への対応など非常に活発に共同利用・共同研究活動が行われていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、素粒子物理学におけるビッグデータ解析への対応に向けて不可欠な AI の活用など計算機科学分野等の異分野との連携や、社会貢献を見据えた機械学習や量子コンピュータ分野での活躍が期待される人材育成のための取組を更に進めるとともに、女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進することが期待される。</p>

通し番号	4
共同利用・共同研究拠点名	物性科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(物性研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>物性科学の研究拠点として、世界屈指の性能を持つ強磁場施設をはじめとする先端実験設備から小規模ながら特色ある実験設備までを広く共同利用に供し、新物質創成や新現象の発見等世界トップレベルの研究成果を上げている。更に分野横断的な研究に向けた組織再編や、生物学等との融合分野への挑戦も行われるなど、物質科学分野における国内外における研究の中核性を有していることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、我が国全体をリードする研究機関として、分野横断など他分野との連携を更に強化するとともに、外国人研究者や女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進することが期待される。</p>

通し番号	5
共同利用・共同研究拠点名	複合原子力科学拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(複合原子力科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>大学附置のメガワット級の研究用原子炉として我が国唯一かつ世界でも有数の施設を共同利用に供することにより、原子力工学のみならず、材料科学や生命科学、化学など幅広い分野にわたる学際的な共同研究を展開するとともに、ホウ素中性子捕捉療法の実装等の国際的に優れた成果を上げている。共同利用・共同研究についても新規規制基準下の運転許可後は特に多数実施されており、更には原子力科学に関わる大学の関連機関との密接な協力による課題解決と社会が求める研究教育に資するため、原子力科学系大学研究所等連携協議会を設立するなど関連コミュニティとの連携を強化していることも高く評価できる。</p> <p>今後は、重要課題である施設の老朽化対策に適切に取り組むとともに、国際共同研究の実施や外国人留学生の受入れ、海外からの施設利用等について更なる国際化に向けた取組の強化が期待される。また、異分野融合・新分野創出に向けた複合原子力科学を更に発展させていくための具体的な方策についての更なる検討が期待される。</p>

通し番号	6
共同利用・共同研究拠点名	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(生存圏研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>生存圏科学の中核的拠点として、ユニークな大型装置・実験施設による「設備利用型全国共同利用」、データベース構築と発信を核とする「データベース共同利用」、プロジェクト研究を展開する「プロジェクト型共同研究」の枠組みを通じて、良質のサービスの下多くの共同利用・共同研究を推進し、着実に研究成果を上げていることは評価できる。</p> <p>一方、設置している8つの共同利用・共同研究拠点専門委員会の独立性が高く、学際融合科学として位置付けられた生存圏科学として、異分野融合研究への研究施設全体での包括的な取組は限定的である。</p> <p>今後は、国際化、人材養成、新分野創成、異分野融合等の観点から、人的交流を含めて研究施設内の各分野を更に横断又は連携させ、学際融合的な共同研究の推進が可能となる組織的な仕組み作りのための具体的な方策についての検討が望まれる。</p>

通し番号	7
共同利用・共同研究拠点名	レーザーエネルギー学先端研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(レーザー科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>「高エネルギー密度科学」を軸にレーザー宇宙物理学、ニュークリアフォトニクス、物理インフォマティクス等の新分野を含め学際的展開を図り、更にはグローバル化の観点から外国人教員の雇用の強化や海外連携オフィスの整備を通じて欧米やアジアとの連携を強化し、その結果として国際共著論文等国際的に優れた研究成果を上げており、レーザー科学分野における我が国の国際的拠点としての役割を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、研究施設が有する中核的な共同利用装置の老朽化への対応や稼働率の向上を通じて、国際的な競争力の更なる向上を図るとともに、共同利用・共同研究に関わる組織や研究者を更に広げ、現在進行中の組織再編をより具体的な方策の下で進めることで、研究施設のみならず大学全体の研究力強化につなげることが期待される。</p>

通し番号	8
共同利用・共同研究拠点名	放射光物質物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	広島大学(放射光科学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>紫外から真空紫外領域の大強度放射光を用いた特色ある光電子分光装置と世界的な競争力を有する計測技術を生かし、物質の性質や機能発現の解明を目指して国内外の共同利用・共同研究により優れた研究成果を上げるとともに、恒常的に装置の性能向上に挑み、物性・生命融合分野への研究展開を図っていることは評価できる。</p> <p>一方で、中間評価における指摘への対応について、改善が見られるものの更なる努力が必要である。</p> <p>今後は、科研費等の外部資金の獲得に更に努めるとともに、優れた分析装置等の利用を更に広い研究分野、特に学外利用へ展開するための具体的な方策の検討や、共同利用・共同研究を通じた本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが望まれる。</p>

通し番号	9
共同利用・共同研究拠点名	地球掘削科学共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	高知大学(海洋コア総合研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>掘削科学に関する中核的拠点として、国立研究開発法人海洋研究開発機構との共同により、特に国際深海科学掘削計画及び国際陸上科学掘削計画に関わる地球掘削科学に関する研究等を推進するとともに、多くの共同利用・共同研究を展開していることは評価できる。</p> <p>一方で、国際共同研究における海外との共著論文は増加傾向にあるものの、国際交流協定数や国際的な研究プロジェクトへの参加状況は限定的であり、大学院生及び留学生の受入れ数も少ない。</p> <p>今後は、共同研究者の受入れや共同研究等における更なる国際化の強化とともに大学院生や留学生等の人材育成機能の強化に努めることが望まれる。また、学術動向の把握や研究者コミュニティとの連携を強化してこれらを拠点の運営方針に還元する仕組みについて具体的な方策を検討することが望まれる。</p>

通し番号	10
共同利用・共同研究拠点名	応用力学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	九州大学(応用力学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>エネルギーと環境の課題に対して、応用力学的手法を用いて地球環境、核融合、新エネルギーの3つの学術基盤から貢献する中核的拠点であり、共同利用・共同研究課題の応募・採択件数も多く、国際共同研究の枠組みの構築による外国人共同研究者の増加等の国際化も推進されており、共同利用・共同研究拠点としての活動が活発に行われていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、外国人研究者や女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進することが期待されるとともに、中間評価結果における留意事項への対応について、引き続き3つ学術基盤をまたがる連携研究を更に具体的に推進して異分野融合や新分野創成を促進させ、相乗効果を生む組織的な対応に関する具体的な方策の検討が期待される。</p>

通し番号	11
共同利用・共同研究拠点名	海洋エネルギー創成と応用の先導的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	佐賀大学(海洋エネルギー研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>我が国唯一の海洋エネルギーに関する中核的拠点として、国際エネルギー機関(IEA)や国際電気標準会議(IEC)等に日本を代表して参画するなど国際的な関連コミュニティの発展や人材育成に貢献し、更に地域が推進する海洋エネルギーの社会実装や企業等との連携の下で実用化を目指した研究を展開するなど当該分野の中核的な役割を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方で、国際的な学術誌への質の高い論文掲載等の世界水準に照らした研究成果や、学外研究者の利用数は限定的である。</p> <p>今後は、比較的小規模な研究施設であることも踏まえ、政策的役割だけでなく大学としての研究成果創出といった観点から、他機関との組織的な連携の促進を含めて研究力を高めるための具体的な方策の検討とともに、科研費等の外部資金の獲得や学外利用の拡大に向けた着実な取組が望まれる。</p>

通し番号	12
共同利用・共同研究拠点名	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(情報基盤センター) 東北大学(サイバーサイエンスセンター) 東京大学(情報基盤センター【中核施設】) 東京工業大学(学術国際情報センター) 名古屋大学(情報基盤センター) 京都大学(学術情報メディアセンター) 大阪大学(サイバーメディアセンター) 九州大学(情報基盤研究開発センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>東京大学を中心とするネットワーク型拠点として、構成する機関がそれぞれ大規模計算機を備え連携することで、超大規模数値計算系応用分野、超大規模データ処理系応用分野、超大容量ネットワーク技術分野、超大規模情報システム関連研究分野に対応し、計算資源についてネットワーク経由での利用環境を供することで日本全国、全分野の関連コミュニティに貢献しており、更に宇宙物理学分野や学際分野をはじめ広範な分野での社会ニーズに応える研究成果を上げていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、ネットワークとしての特色を最大限生かし、アーキテクチャーやシステムソフトウェア、セキュリティ等の研究課題への貢献等、保有データやネットワークを利用した、研究施設が主体となったIT技術の基盤的研究を更に推進することや、医療や経済、教育等の個人情報保護の観点から懸念がある社会活動データを利用した研究を推進することが期待される。</p>

通し番号	13
共同利用・共同研究拠点名	低温科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(低温科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>低温科学分野における中核的拠点として、研究施設の研究水準は高く規模に応じた実績を有しており、国内外の研究施設との密接した連携による広い分野にわたる研究とともに共同利用・共同研究も活発に展開されていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、教授・准教授レベルの女性研究者の登用によるダイバーシティの更なる推進とともに、外国機関や外国人研究者の共同研究への参加を促す具体的な仕組みの構築等を通じた国際共同研究の発展が期待される。</p>

通し番号	14
共同利用・共同研究拠点名	触媒科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(触媒科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>触媒科学分野における中核的拠点として、共同利用・共同研究による特筆すべき多くの研究成果が上がっていると同時に、多くの技術職員を擁するなど研究支援・技術支援体制も充実している。中間評価結果における留意事項へも適切に対応し、当該分野における国際活動、産学連携、人材育成に貢献していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、外部研究者の受入れや施設・設備の共同利用の更なる促進を通じた当該研究分野における共同利用・共同研究活動の一層の発展が期待される。また、拠点ネットワークの構築を通じた光触媒とインフォマティクスをはじめとする分野融合と新領域開拓とともに、イノベーションへの更なる貢献が期待される。</p>

通し番号	15
共同利用・共同研究拠点名	情報通信共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(電気通信研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>情報通信分野における中核的拠点として、共同利用・共同研究による特筆すべき多くの研究成果が上がっていると同時に、外国人教員数の増加、国際共同研究の推進、事務組織の国際対応等、国際水準の共同利用・共同研究拠点としての積極的な対応が行われていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、稼働率が必ずしも高くない保有研究設備等の更なる活用による共同利用の促進、より積極的な外部資金の獲得、ジェンダーバランスの強化、産学連携を一層推進するための具体的方策の検討を通じて、より活発な共同利用・共同研究活動を展開することが期待される。</p>

通し番号	16
共同利用・共同研究拠点名	流体科学国際研究教育拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(流体科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>流体科学分野における中核的拠点として、共同利用・共同研究による特筆すべき多くの研究成果が上がっていると同時に、外国人教員の増、活発な海外派遣及び招へいによる国際共同研究の推進、組織的な技術支援体制の充実等の国際的水準での共同利用・共同研究拠点としての積極的な対応が行われていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、共同利用・共同研究を通じた本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待されるとともに、外国人研究者や女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進することが期待される。</p>

通し番号	17
共同利用・共同研究拠点名	環境リモートセンシング研究拠点
大学等名 (研究施設名)	千葉大学(環境リモートセンシング研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>環境リモートセンシングにおける中核的拠点として、国内外の関連研究者に対するデータを提供し、リモートセンシング技術の開発からデータ処理、データを用いた基礎研究、社会実装まで幅広い課題に取り組み、また多くの留学生を受け入れるなど共同利用・共同研究を生かした人材育成を進めていることは評価できる。</p> <p>一方で、中間評価結果の留意事項への対応も一定程度進められているが、研究実績や外部資金の獲得状況は研究施設の規模に比して必ずしも十分ではなく、共同利用・共同研究課題の応募・採択件数も限定的である。</p> <p>今後は、当該研究分野の広がりの可能性を見据えた関連コミュニティの拡大に努めるとともに、衛星技術の中核とした異分野融合研究の更なる促進を通じた、イノベーションの創出にも貢献する具体的な方策を検討することが望まれる。</p>

通し番号	18
共同利用・共同研究拠点名	空間情報科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(空間情報科学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>空間情報科学分野における中核的拠点として、地理空間情報等のユニークな空間データ基盤の提供により、人文・社会科学から自然科学に至る幅広い分野との共同利用・共同研究を推進し、関連コミュニティへの貢献、空間情報科学の普及・発展に寄与していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、共同利用・共同研究を通じた本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待されるとともに、デジタルトランスフォーメーションへの対応など世界的規模での社会変化が進む中での本分野の重要性を踏まえ、異分野を含むより幅広い関連コミュニティへのデータやプラットフォームの利用拡大に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	19
共同利用・共同研究拠点名	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(地震研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>地震・火山科学分野の中核的拠点として、質・規模ともに共同利用・共同研究による特筆すべき多くの研究成果が上がっており、国内外の関連コミュニティとの共同利用・共同研究を積極的に推進する組織的な運営が行われているとともに、理学及び工学にとどまらない人文・社会科学との文理融合に向けた関係機関との組織的な連携を促進していることも高く評価できる。</p> <p>今後は、教授・准教授レベルの外国人研究者や女性研究者の増加等のダイバーシティを更に推進することが期待されるとともに、計算地球科学等の新たな学問領域の更なる開拓に向けた挑戦的な取組が期待される。</p>

通し番号	20
共同利用・共同研究拠点名	先端無機材料共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京工業大学(科学技術創成研究院フロンティア材料研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>先端無機材料分野における中核的拠点として、大型外部資金の獲得や卓越したリーダーの存在を基盤に、共同利用・共同研究による特筆すべき多くの研究成果が上がっており、研究支援に当たっての事務的・技術的サポート体制の充実とともに、共同研究・共同研究課題の応募・採択数も多く、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、教授・准教授レベルの女性研究者の増加等、ダイバーシティを更に推進することが期待されるとともに、本研究施設が主体となった組織的な共同利用・共同研究や国際交流の更なる促進による発展的な拠点運営が期待される。</p>

通し番号	21
共同利用・共同研究拠点名	越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	金沢大学(環日本海域環境研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>越境汚染に伴う環境変動研究に関する中核的拠点として、特徴的な設備を生かしたユニークな研究活動を通じて、小規模な研究施設ながらも教員規模に比して多くの共同利用・共同研究課題の採択を行っていることや、国際共同研究や国際交流の推進を通じて国際共著論文比率が高いことなどは評価できる。</p> <p>一方、外部資金の獲得状況や本研究施設が主体となった質の高い論文発表は十分ではなく、波及効果も限定的である。</p> <p>今後は、環日本海域・東アジアのみならず全球規模を視野に研究対象を拡大することにより、外部資金の獲得や潜在的な共同研究の拡大を図るとともに、拠点としての国際性の更なる強化に向けた具体的な方策の検討が望まれる。</p>

通し番号	22
共同利用・共同研究拠点名	宇宙地球環境研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(宇宙地球環境研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>宇宙地球環境研究における中核的拠点として、宇宙科学と地球科学を融合する非常にユニークな研究施設であり、共同利用・共同研究課題の応募・採択規模は大きく、特に関係する研究機関との国際的な連携、国際共著による研究成果の創出等の研究の中核性は高く、かつ共同利用・共同研究活動も非常に活発に行われていることは、非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、若手研究者の育成に当たっての具体的かつ効果的な方策の検討とともに、研究施設内外の異分野融合を更に進め、宇宙と地球をつなぐシステムや相互関係に関する新たな学問分野の創出に向けた取組の展開が期待される。</p>

通し番号	23
共同利用・共同研究拠点名	革新的省エネルギーのための材料とシステム研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(未来材料・システム研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>省エネルギーデバイス・材料分野における中核的拠点として、卓越した研究者が在籍し当該分野をリードする多くの優れた研究成果を上げており、特に産学官連携を効果的に進めていることは評価できる。</p> <p>一方、研究施設の規模に比して共同利用・共同研究課題の応募・採択数や参画する研究者の規模が必ずしも多くなく、また国際共同研究数など国際交流も限定的であるとともに、拠点運営は中部地区との連携に偏っている。</p> <p>今後は、当該分野がより一層社会貢献に直結する成果の創出が見込まれることから、より全国的な視点での拠点運営や産学連携に努めるとともに国際性の更なる強化が望まれ、教授・准教授レベルの外国人研究者や女性研究者の増加等、ダイバーシティを更に推進することも望まれる。</p>

通し番号	24
共同利用・共同研究拠点名	ゼロエミッションエネルギー研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(エネルギー理工学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>エネルギー基礎科学分野における中核的拠点として、特徴的な研究設備を生かした質の高い研究実績を有し、複合的な学術分野との共同研究の推進、国内外の研究施設との密接した連携など、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、共同利用・共同研究を通じた本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待されるとともに、産学連携や国際共同研究の促進によるエネルギーシステム全体としての「ゼロエミッション」までを視野に入れた新分野の創成など、環境・エネルギー問題解決に資する成果の創出が期待される。</p>

通し番号	25
共同利用・共同研究拠点名	理論物理学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(基礎物理学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>理論物理学分野の中核的拠点として、理論物理の全ての分野を網羅し、基幹分野の発展はもとより分野横断的に研究を進めており、卓越した研究者による多くの優れた研究実績、共同利用・共同研究活動における国内外の非常に多くの研究者の参画等、世界的な求心力を有していることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者の増加等のダイバーシティを更に推進することが期待されるとともに、既存の理論物理の範囲を超えたより挑戦的で幅広い共同利用・共同研究活動への展開が期待される。</p>

通し番号	26
共同利用・共同研究拠点名	自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(防災研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>自然災害に関する総合防災学の中核的拠点として、高度で充実した施設・設備を基盤として、高い研究水準の多数の実績を有するとともに、地域社会や初等・中等教育への多彩なアウトリーチ活動、国際会議の主催等を展開しており、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、防災・減災学の構築に向けて、人文・社会科学との更なる密接な連携を通じた異分野融合研究を積極的に推進する具体的な方策の検討が期待される。</p>

通し番号	27
共同利用・共同研究拠点名	接合科学共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(接合科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>溶接・接合に特化した接合科学分野の中核的拠点として、高い水準の施設・設備を基盤とした国内外の共同利用・共同研究活動の展開はもとより、民間企業との共同研究も活発に行われ、更にはアジア地域を中心とした国際連携活動を積極的に進めるなど、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、当該分野の更なる学術的な深化とともに、界面工学や積層造形工学等を含めた新たなコミュニティへの拡張に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	28
共同利用・共同研究拠点名	地球・惑星物質科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	岡山大学(惑星物質研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>地球惑星物質科学の中核的拠点として、比較的小規模な研究施設ながら独自の優れた研究設備と技術を基盤として活発な研究活動が展開されるとともに、国際的な視点での独自の人材育成に取り組むなど、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方、外部資金の獲得状況や共同利用・共同研究者の受入状況及び参画機関数は必ずしも十分ではなく限定的である。</p> <p>今後は、研究施設独自の強みの確立に向けた研究の中核性の更なる向上が望まれるとともに、分野を超えた広範な異分野融合研究の展開による新分野創成に向けた、具体的な方策を明確にすることが望まれる。</p>

通し番号	29
共同利用・共同研究拠点名	先進超高压科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	愛媛大学(地球深部ダイナミクス研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>先進超高压科学の中核的拠点として、比較的小規模な研究施設ながら世界的にも他の追随を許さない独自の優れた研究設備と技術を基盤として、国際的な共同研究の実績も多く研究教育の国際化が非常に進んでおり、かつ共同利用・共同研究活動も活発に行われており、関連コミュニティへの貢献も非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、超高压科学に関する技術開発を更に進めてその独自性と特色を一層追及するとともに、現在進めている地球惑星科学にとどまらない物理学・化学・材料科学分野等との学際的な研究活動への更なる拡大も期待される。</p>

通し番号	30
共同利用・共同研究拠点名	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	九州大学(マス・フォア・インダストリ研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>産業数学分野の中核的拠点として、当該分野をリードする多くの優れた研究成果を上げるとともに、中間評価結果の留意事項への対応として産業界との連携や社会実装へも積極的に対応し、国際共同研究、国際研究集会、研究者・学生交流にも取り組むなど一定の関連コミュニティへの貢献を果たしていることは評価できる。</p> <p>一方、研究施設の規模に比して共同利用・共同研究課題の応募・採択数や研究者の海外派遣及び招へいは必ずしも十分ではなく限定的である。</p> <p>今後は、拠点の有する学術的なインパクトを高めるための産学連携の在り方とともに、全学的な大学の機能強化にも通じる国際公募研究の展開等、更なる国際化の向上に向けた具体的な方策の検討が望まれる。</p>

通し番号	31
共同利用・共同研究拠点名	物質・デバイス領域共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(電子科学研究所) 東北大学(多元物質科学研究所【中核施設】) 東京工業大学(科学技術創成研究院化学生命科学研究所) 大阪大学(産業科学研究所) 九州大学(先導物質化学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>5 大学 5 研究所による物質・デバイス領域における拠点ネットワークとして、各研究所の研究の卓越性と優れた施設・設備を生かしつつ、5 研究所間の事務連携体制の強化等、拠点ネットワークとしての体制整備や研究支援・技術支援体制も強化されるとともに、ネットワークを通じた若手育成支援の充実や学際的な研究の芽が出始めるなど、関連コミュニティへの貢献が非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、拠点ネットワークのモデルとして一層開かれた拠点運営が期待されるとともに、個々の研究施設にとどまらない拠点ネットワークとしての存在感と国際的な共同利用・共同研究活動を更に高めていくことが期待される。</p>

通し番号	32
共同利用・共同研究拠点名	北極域研究共同推進拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(北極域研究センター【中核施設】) 情報・システム研究機構(国立極地研究所国際北極環境研究センター【連携施設】) 海洋研究開発機構(北極環境変動総合研究センター【連絡施設】)
評価区分 (期末評価結果)	B
評価コメント	<p>北極域研究に特化した連携型のネットワークによる特色ある拠点として、各研究施設それぞれの独自のインフラと特長を活かした異分野融合研究が展開されており、我が国における北極域研究の拠点として、個々の研究施設の実績や成果が上がっていることは一定の評価ができる。</p> <p>一方、北極域研究という国際的かつ学際的な研究領域にもかかわらず、海外からの共同利用・共同研究の参加者数は限定的であるとともに、共同利用・共同研究課題の応募・採択状況が拠点の規模に比して低調である。また、3つの研究施設の役割分担を超えた連携の具体像及び連携により期待されるメリットが不明確であるとともに、連携を通じた共同研究の増加やコミュニティの拡大に向けた具体的な方策が不明確である。</p> <p>今後は、北極域研究という特性を生かした連携による国際的な活動の一層の展開や、他分野のコミュニティに対するより積極的な北極域研究への参画の促進等、連携による相乗効果を最大化する具体的な方策について真摯な検討が必要である。</p>

通し番号	33
共同利用・共同研究拠点名	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染癌の先端的 研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(遺伝子病制御研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>細菌やウイルスの持続的感染により発生する感染癌に関する中核的拠点として、比較的小規模な研究施設ながら質の高い論文発表を行っていることや、中間評価結果を踏まえて共同利用・共同研究課題の応募・採択件数を増加させる改善が図られていることは高く評価できる。</p> <p>今後、感染癌を中心とした拠点の機能強化を図るためには中核となる研究者の人材確保に更に努めるとともに、感染癌にとどまらない幅広い研究領域への更なる展開の検討も期待される。また、単一細胞の発現解析等を含む大量のデータを用いたデータサイエンス志向の研究への適切な対応が期待される。</p>

通し番号	34
共同利用・共同研究拠点名	人獣共通感染症研究拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(人獣共通感染症リサーチセンター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>人獣共通感染症に関する世界的なネットワークが構築された国際的拠点として、比較的小規模な研究施設ながら多くの外部資金を獲得していることや国際共同研究が活発に行われていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、当該分野における中核拠点性を更に発揮するため、共同利用・共同研究を通じて本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待される。</p>

通し番号	35
共同利用・共同研究拠点名	加齢医学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(加齢医学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>加齢医学研究に関する多面的な研究を推進する国際的拠点として、神経科学分野における世界有数の設備群を大学のみならず民間機関や外国機関にも広く共同利用に供していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、超高齢社会を見据え、共同利用・共同研究を通じて人文・社会科学分野までを取り込んだ更なる異分野融合や新領域の研究を推進するとともに、アジアのスマート・エイジング研究を主導するなど、国際的な加齢医学研究を一層牽引していくことが期待される。</p>

通し番号	36
共同利用・共同研究拠点名	内分泌・代謝学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	群馬大学(生体調節研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>内分泌・代謝学における我が国唯一の基礎医学研究拠点として、最新の技術を取り入れた研究の推進とともに特色ある疾患モデル生物を共同利用に供していることは評価できる。</p> <p>一方で、保有する設備等の共同利用に関しては、国内外の研究者に対して必ずしも有効に活用されているとは言えない。今後は、内分泌・代謝学にとどまらない異分野融合や新領域の研究の更なる推進とともに共同利用・共同研究活動の更なる国際化が望まれる。</p>

通し番号	37
共同利用・共同研究拠点名	真菌感染症研究拠点
大学等名 (研究施設名)	千葉大学(真菌医学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>真菌感染症の研究に特化した我が国唯一の研究拠点として、比較的小規模な研究施設ながら、世界規模の真菌バイオリソースの共同利用を通じた積極的な国際共同研究を推進していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、当該分野における中核拠点性を更に発揮するため、外部資金の獲得増加に一層努めることや、共同利用・共同研究を通じて本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待されるとともに、真菌感染症に特化しつつもより幅広い視野を持つ人材育成を推進することが期待される。</p>

通し番号	38
共同利用・共同研究拠点名	難治疾患共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京医科歯科大学(難治疾患研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>難治疾患に関わる幅広い研究領域の優れた研究者による、多彩な研究手法を用いた先駆的な研究を推進する中核的拠点として、最先端の研究設備と豊富な研究資源を共同利用に供するとともに、共同利用・共同研究による優れた研究成果が上がっていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、研究対象としての「難治疾患」の時代に応じた変容に柔軟に対応できるよう、共同利用・共同研究を通じた異分野を含む国内外の研究者のハブとしての機能強化を更に推進し、旧来の研究領域にとらわれない持続的で発展的な変化に対応していくことが期待される。</p>

通し番号	39
共同利用・共同研究拠点名	脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	新潟大学(脳研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>基礎部門と臨床部門を併せ持った脳神経疾患に関する中核的拠点として、世界規模の脳神経病理標本資源を集積して共同利用に供していることや、若手研究者の新たな雇用を通じて脳疾患病態研究の新たな発展を目指していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、脳及び脳疾患という領域を伸ばしていくために更なる挑戦的な共同利用・共同研究活動が期待されるとともに、特に、今後の方向性として「こころと脳疾患研究」の実践を目指すに当たっては、臨床領域として脳神経内科や脳神経外科のみならず精神科領域の研究者の参画が期待される。また、教授・准教授レベルの女性研究者及び外国人研究者の登用によるダイバーシティの更なる推進が期待される。</p>

通し番号	40
共同利用・共同研究拠点名	がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	金沢大学(がん進展制御研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>がんの転移及び薬剤耐性に焦点を当てた中核的拠点として、国際共同研究課題の公募に当たって若手研究者支援枠を設けて採択を拡大するなど若手研究者人材育成を推進していることや、WPI 拠点であるナノ生命科学研究所と連携して異分野融合による他研究分野への波及も期待される優れた成果が上がっていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、東アジア地域にとどまらず欧米諸国の研究者との更なる連携による一層の共同利用・共同研究の国際化を図ることが期待されるとともに、転移及び薬剤耐性といった従来の研究領域にとどまらない次世代のがん研究を見据えた展開についての検討が期待される。</p>

通し番号	41
共同利用・共同研究拠点名	ウイルス感染症・生命科学先端融合的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(ウイルス・再生医科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>ウイルス学を中心とした基礎生命科学の中核的拠点として、国内有数の霊長類及びマウスの P3 感染実験室を用いた国内外の研究者との共同研究を推進することで優れた成果が上がっていることは評価できる。</p> <p>一方で、施設・設備の学外からの共同利用はほとんどなく、共同利用・共同研究の参加状況も必ずしも十分ではない。今後は、同一研究施設の 2 拠点が統合することで、研究支援体制の充実や学外研究者の参加促進に向けた情報発信強化等、共同利用・共同研究のマネジメント機能の更なる向上が望まれるとともに、共同利用・共同研究拠点として関連コミュニティに対して提供する研究環境を更に増やすなど統合に伴う拠点機能の強化についての検討が望まれる。</p>

通し番号	42
共同利用・共同研究拠点名	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(ウイルス・再生医科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	B
評価コメント	<p>再生医学を中心とした生命科学の中核的拠点として、樹立したヒト ES 細胞の分譲を通じた関連コミュニティへの貢献や、ヒト ES 細胞倫理研修や細胞使用に関する講習会の開催等による共同研究者への支援体制が充実していることは一定の評価ができる。</p> <p>一方で、共同利用・共同研究を通じて本研究施設が主体となった質の高い論文発表等の成果が上がっているか不明確であるとともに、共同利用・共同研究の参加状況は拠点の規模に比して低調である。今後は、同一研究施設の 2 拠点が統合することで、研究支援体制の充実や学外研究者の参加促進に向けた情報発信強化等、共同利用・共同研究のマネジメント機能の更なる向上が望まれるとともに、共同利用・共同研究拠点として関連コミュニティに対して提供する研究環境を更に増やすなど統合に伴う拠点機能の強化についての検討が望まれる。</p>

通し番号	43
共同利用・共同研究拠点名	微生物病共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(微生物病研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>感染症学、免疫学、生体応答学等に関わる卓越した研究者が在籍し、世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表が多数、継続的になされるとともに、国際公募による若手研究者の積極的登用のみならず大学院生受入れも増加しており、当該分野の人材育成にも多大な貢献を果たしていることは極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、共同利用・共同研究課題の公募に際して海外研究者からの応募促進等の更なる国際化に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	44
共同利用・共同研究拠点名	酵素学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	徳島大学(先端酵素学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>酵素学を基盤とした基礎医学研究の中核的拠点として、保有する先端機器を用いた受託解析による関連コミュニティへの貢献や、中間評価結果を踏まえて共同利用・共同研究課題の採択件数を増加させていることは評価できる。</p> <p>一方で、本研究施設が広範な研究領域を対象としているが故に、研究施設としての特色の可視化に課題があるとともに、世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表も必ずしも十分ではない。今後は、組織体制見直しによる重点研究部門を更に機能させる取組が望まれるとともに、より積極的な国際連携による国際共同研究の更なる推進が望まれる。</p>

通し番号	45
共同利用・共同研究拠点名	多階層生体防御システム研究拠点
大学等名 (研究施設名)	九州大学(生体防御医学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>生命科学分野における中核的拠点として卓越した研究者が在籍し、世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表が多数なされるとともに、オミクス解析やエピゲノム解析等の世界的な最先端技術を充実した支援体制の下で共同利用に供している。関連コミュニティへの貢献も多大であり、極めて高く評価できる。</p> <p>今後は、産学官のより幅広い関連コミュニティに対して設備の共同利用や最先端解析技術等の提供を可能とする体制拡大が期待される。</p>

通し番号	46
共同利用・共同研究拠点名	熱帯医学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	長崎大学(熱帯医学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>熱帯医学及び国際保健における中核的拠点として、海外拠点を活用したフィールドワークを主体とした国際的な感染症研究を牽引するとともに、共同利用・共同研究を通じた国内外の教育研究機関との頭脳循環を展開していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、本研究施設が主体となった、世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表を継続的に行うことが期待される。</p>

通し番号	47
共同利用・共同研究拠点名	発生医学の共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	熊本大学(発生医学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>発生学と医学を融合した新学術領域を推進する中核的拠点として、比較的小規模な研究施設ながら、研究施設が主体となった世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表が継続的に行われるとともに、共同利用・共同研究に関する情報提供の工夫により外部利用者が利用しやすい体制が整えられていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、当該分野においても進展が著しいデータサイエンス志向の研究に適切に対応し、先端的な発生医学分野の研究を更に牽引していくことが期待される。</p>

通し番号	48
共同利用・ 共同研究拠点名	放射線災害・医科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	広島大学(原爆放射線医科学研究所【中核施設】) 長崎大学(原爆後障害医療研究所) 福島県立医科大学(ふくしま国際医療科学センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>放射線災害・医科学分野を融合した学術基盤を基にした中核拠点として、ネットワークを構成する各研究施設の特性を生かして福島復興の学術面からの支援に取り組むとともに、成果の国際社会への発信を推進してきたことは、世界的な放射線災害医療への貢献が大きく高く評価される。</p> <p>今後は、拠点ネットワークとして更に有機的かつ一体的に、サイエンスとしてどういった課題を設定し取り組むのかについて、具体的なビジョンやテーマをより明確にすることが期待されるとともに、更なる異分野融合の促進に向けて情報発信の強化や拠点ネットワーク内外の人的交流の促進等の取組が期待される。</p>

通し番号	49
共同利用・共同研究拠点名	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	帯広畜産大学(原虫病研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>動物の原虫病に特化し、OIE(国際獣疫事務局)コラボレーティングセンターに認定された特色ある研究施設として、共同研究ラボの設置等の外国研究機関との国際共同研究の推進や、東南アジアやアフリカ等の海外研究者受け入れによる人材育成を通じた国際交流を推進しており、当該分野の中核的な研究拠点としての役割を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者や若手研究者等ダイバーシティへの取組による国際性の強化や、世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表の増加が期待される。</p>

通し番号	50
共同利用・共同研究拠点名	形質転換植物デザイン研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(つくば機能植物イノベーション研究センター遺伝子実験センター)
評価区分 (期末評価結果)	B
評価コメント	<p>形質転換植物に関する中核的拠点として、ゲノム編集トマトの開発等特色ある研究成果を上げ、大型の外部資金を獲得するなど研究の中核性を有するとともに、大学だけでなく独立行政法人や民間企業が多数参加する共同利用・共同研究を進め研究者コミュニティに貢献していることは一定の評価ができる。</p> <p>一方で、今後の研究対象や成果創出への対応等、共同利用・共同研究拠点としての今後の方向性が不明確である。</p> <p>今後は、近隣の関連分野の研究機関との連携による研究成果創出に向けた更なる取組等、ゲノム編集作物を共同利用に供する重要な研究施設として拠点の方向性を検討することが望まれる。</p>

通し番号	51
共同利用・共同研究拠点名	大気海洋研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(大気海洋研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>大気海洋に関する中核的拠点として、充実した支援体制を構築し、共同利用・共同研究活動が活発に行われ、複数の大型外部資金の獲得や世界水準の国際的な学術誌へ質の高い論文を多く発表するなど関連コミュニティの発展に顕著に寄与し、更には国際沿岸海洋研究センターを中心に東日本大震災後の地域復興にも貢献していることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、施設・設備についての外部利用比率が高まるよう共同利用を更に促進するとともに、女性研究者や外国人研究者の比率を高めるなどダイバーシティへの取組や産業界との更なる連携強化が期待される。</p>

通し番号	52
共同利用・共同研究拠点名	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(生態学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>生態学・生物多様性科学分野の中核的拠点として、小規模ながら大型外部資金の獲得や世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表等の研究成果を上げるとともに、調査船をはじめとした施設・設備や琵琶湖に関するデータベース等の利用状況が好調であり、更には西太平洋・アジア生物多様性ネットワーク(DIWPA)を運営し、外国研究機関との学術交流や国際的な人材育成を実施していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、内部利用の多い施設・設備について外部利用比率が高まるよう共同利用を更に促進するとともに、総合地球環境研究所との異分野融合研究に係る方向性の更なる具体化及び留学生や外国人研究者の受入れを更に増加させる取組が期待される。</p>

通し番号	53
共同利用・共同研究拠点名	放射線生物学の研究推進拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(生命科学研究科附属放射線生物研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	B
評価コメント	<p>放射線生物学に関する研究拠点として、放射線の生物への影響と関連分野の基礎研究を実施するとともに、放射線照射システム等の機器や染色体のデータベース等の特色ある施設・設備を共同利用に供し、また一般市民が参画するシンポジウム等のアウトリーチ活動を実施していることは一定の評価ができる。</p> <p>一方で、女性研究者や若手研究者数が少なく、また共同利用・共同研究の学外利用や教員の流動性は非常に限定的である。</p> <p>今後は、当該分野の研究拠点として学外の利用の更なる推進を含め、より開かれた拠点運営を図ることが望まれる。</p>

通し番号	54
共同利用・共同研究拠点名	絶滅の危機に瀕する野生動物(大型哺乳類等)の保全に関する研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(野生動物研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>絶滅の危機に瀕する野生動物の保全に関する中核的拠点として、国内外に学外フィールドや多数の海外拠点を有し、外国研究機関と連携協定を締結して積極的に国際プロジェクトを推進するとともに、遺伝資源のデータベース等を通じた共同利用・共同研究も積極的に実施し、更に外国から大学院生や若手研究者を招いての実習・共同研究等を通じた人材育成や、世界水準の国際的な学術誌へ質の高い論文発表等、研究成果を上げていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、質の高い新たな成果の創出に向けて、当該分野の特色である観察研究の在り方を含め、生命科学分野の変化を踏まえた拠点としての方向性を検討することが期待される。</p>

通し番号	55
共同利用・共同研究拠点名	霊長類学総合研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(霊長類研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>遺伝子から社会構造まで広範囲にわたる霊長類の諸特性を総合的・学際的に研究する世界的な研究拠点として、共同利用・共同研究が活発に行われており、世界水準の国際的な学術誌への論文発表等優れた研究成果を上げていることは評価できる。</p> <p>一方で、過去の研究費の不正使用事案の発生に対しては、大学及び研究施設として十分な体制整備が図られていなかった。</p> <p>今後は、研究費の管理体制を含む研究施設の体制強化に真摯に取り組むとともに、我が国が発信する国際的にも非常に重要な霊長類研究の展開において引き続き中核性を有する拠点としての更なる発展が望まれる。</p>

通し番号	56
共同利用・共同研究拠点名	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(蛋白質研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>蛋白質科学に関する中核的拠点として、世界最高性能のクライオ電子顕微鏡をはじめ蛋白質の構造解析に不可欠な装置や蛋白質に関するデータベースの運用等、施設、設備、資料及びデータを共同利用に供し、活発に共同利用・共同利用活動を行うとともに、多数の論文発表等優れた研究成果を上げ、分野融合研究の推進や研究組織の改組、国際ジョイントラボの形成に向けた取組を実施するなど、中間評価結果への対応を通じて拠点としての中核性を更に向上するために取り組んでいることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、特定の領域にフォーカスするなど研究施設の特徴を出すような活動や、立体構造の予測等の計算科学やデータサイエンスの活用による先端的な蛋白質科学の研究に向けた更なる取組が期待される。</p>

通し番号	57
共同利用・共同研究拠点名	乾燥地科学拠点
大学等名 (研究施設名)	鳥取大学(乾燥地研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>我が国唯一の乾燥地科学の中核的拠点として、乾燥地における自然－社会系の持続性の維持・向上に資する研究を通じて着実な研究成果を上げるとともに、中間評価への対応により外部資金の獲得が向上し、更には多数の留学生の受入れ、国連砂漠化対処条約(UNCCD)との連携、国際会議の主催、国際共同研究の推進等、国際性を有した共同利用・共同研究活動が行われていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることや、施設・設備の更なる外部利用の拡充に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	58
共同利用・共同研究拠点名	植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	岡山大学(資源植物科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>植物遺伝資源・ストレス科学に関する中核的拠点として、オオムギシステムをはじめ特色ある資源・データベースを共同利用に供し、世界水準の国際的な学術誌へ質の高い論文を多く発表するなど優れた研究成果を上げるとともに、中間評価結果への対応を通じて植物遺伝資源・ストレス科学の新分野創成、異分野融合を視野に入れた研究の中核性の向上に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>今後は、植物の形質予測等の新たな研究成果の創出に向けて、データサイエンスとの連携を図るとともに、既に取り組んでいるクロスアポイントメントをはじめとした体制強化等、更なる具体的な検討を進めることが期待される。</p>

通し番号	59
共同利用・共同研究拠点名	化学汚染・沿岸環境研究拠点
大学等名 (研究施設名)	愛媛大学(沿岸環境科学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>化学汚染・沿岸環境に係る研究拠点として、国内最大の種数・検体数を有する生物環境試料バンク(es-BANK)及びデータベースをはじめ、試料分析装置等の特色ある施設・整備を共同利用に供し、環境科学・環境微生物等の海洋分野にとどまらない多様な研究領域における共同研究が進むとともに、外部資金の獲得にも努めていることは評価できる。</p> <p>一方で、教授や准教授といった職位での女性研究者比率や、本研究施設が主体となった質の高い論文発表は必ずしも十分ではない。</p> <p>今後は、ダイバーシティの推進による女性研究者比率の更なる増加や、世界水準の国際的な学術誌への論文発表の増加等の優れた研究成果の創出に向けた拠点としての具体的な方策の検討が望まれる。</p>

通し番号	60
共同利用・共同研究拠点名	熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	琉球大学(熱帯生物圏研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>熱帯生物圏における環境生命科学の中核的拠点として、亜熱帯域という地域性を生かしたデータベースをはじめとした特色ある施設及びデータを共同利用に供するなど共同利用・共同研究を活発に実施し、小規模ながら多くの論文を発表するとともに、中間評価結果への対応を通じてサンゴ礁以外の陸域生態系や人間の生命現象としての感染症に研究対象を拡大し、併せて人員配置の見直しによる体制強化にも取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者比率の増加等によるダイバーシティの推進や、「共同利用・共同研究公募審査委員会」の学外委員の増加等の一層外部に開かれた拠点運営に向けた検討を進めるとともに、国立大学に閉じない利用機関の拡充に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	61
共同利用・共同研究拠点名	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点
大学等名 (研究施設名)	北海道大学(スラブ・ユーラシア研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>スラブ・ユーラシア地域研究の中核的拠点として、ユーラシア・イスラーム地域の研究や、北極地域に関する文理融合研究においてユニークな研究成果を上げるとともに、学外の関連コミュニティと共にプログラム形成を行う「共創プラットフォーム」の仕組みを構築し、「境界研究」「帝国研究」等の学術上の重要な概念による超地域的な研究を推進していることは評価できる。</p> <p>一方で、我が国のスラブ関係の研究者養成に資する希少な大学の機能を担う組織として重要な、ロシア・東欧地域の人文・社会科学研究においては、必ずしも研究の中核性が見受けられない。</p> <p>今後、ロシア・東欧地域を含めた海外研究機関とのこれまでの学術交流を生かして、その深化・活性化に向けた、新たな具体的な方策の検討が望まれる。</p>

通し番号	62
共同利用・共同研究拠点名	社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	B
評価コメント	<p>社会調査データに関する寄託や整備、更には二次分析の共同利用を通じて、各研究者及び研究機関における社会調査データの二次利用の重要性に係る意識醸成に貢献するとともに、大規模パネル調査の実施によるデータ提供を通じて分析者や指導者の育成を図るなど、社会科学の方法論の水準の向上に寄与してきたことは一定の評価ができる。</p> <p>一方で、昨今、社会調査データについては各研究機関自ら公開が容易になっている中で、拠点としての中核的な活動であるデータ収集や寄託、公開を通じた本研究施設が主体となった研究成果の創出が限定的となっている。</p> <p>本研究施設が含まれる社会科学研究所が教育社会学や社会階層研究等の格差社会の是正に関する優れた研究機関として高い評価を得ていることから、今後、その優れた研究力を生かすことによる、データ等の共同利用のみならず研究施設が主体となった共同研究の更なる推進や他分野との連携による社会・地域の活性化への貢献を見据え、社会科学研究所全体での共同利用・共同研究の展開の可能性も含め、今後の拠点としての方向性について検討することが望まれる。</p>

通し番号	63
共同利用・共同研究拠点名	日本史史料の研究資源化に関する研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(史料編纂所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>日本史史料の研究資源化に関する中核的拠点として、収集、編纂、デジタル・アーカイブ化された前近代の日本史史料が、国内外の共同研究を通じて多くの研究者に利用され、更には大学院生や外国人若手研究者の受入れを通じた人材育成が推進されており、共同利用・共同研究の活発な活動はもとより、人文・社会科学のオープンサイエンス化を先導していることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、日本史の研究用語や資料用語の英訳、非日本語使用者に対するデジタル・アーカイブの利便性の向上等、国際的な研究環境の整備への一層の取組が期待される。</p>

通し番号	64
共同利用・共同研究拠点名	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京外国語大学(アジア・アフリカ言語文化研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>アジア・アフリカの言語文化に関する中核的拠点として、優れた研究者を擁し、言語学、文化人類学、地域研究及び歴史学の融合研究において優れた研究成果を上げ、我が国における中東イスラーム研究を牽引するとともに、少数言語や貴重資料のデータベース化・公開による共同研究の基盤整備を図るなど共同利用・共同研究拠点としての活動が活発に行われ、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、アジア・アフリカに関する人文知の共有プラットフォームの構築を目指し、新たな共同研究の場を切り開くための具体的な方策の検討が期待されるとともに、コロナ禍を踏まえたオンラインによる国境を越えた国際化の取組の更なる強化が期待される。</p>

通し番号	65
共同利用・共同研究拠点名	「日本および世界経済の高度実証分析」拠点
大学等名 (研究施設名)	一橋大学(経済研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>日本及び世界経済の高度実証分析の中核的拠点として、卓越した研究業績を上げ、国際交流協定の締結によるネットワークの拡大を図るとともに、国内外の経済統計のデータベースの更なる充実を図り、経済史を越えて幅広い社会科学分野における共同利用に供して、マーケティングや精度の高い制度設計及び政策提言等に生かしていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、企業データの活用による企業連携や社会・地域の活性化への貢献等の幅広い拠点活動の一層の見える化に向け、情報発信及び取組の更なる強化が期待される。</p>

通し番号	66
共同利用・共同研究拠点名	先端経済理論の国際的共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(経済研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>先端経済理論に関する中核的拠点として、卓越した研究者のリーダーシップに基づく国内外におけるネットワークが構築・展開され、国際的なセミナーや会議の開催、国際学術誌の編集発行等を行うとともに、異分野との共同によるデータ作成・開放や政策提言にも積極的に取り組むなど関連コミュニティに貢献していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、外部資金の更なる獲得に努めることが期待されるとともに、特定の企業等にとどまらない連携先の多様化に向けた拠点運営体制の強化や、社会実装を後押しする政策提言に向けた更なる取組の強化が期待される。</p>

通し番号	67
共同利用・共同研究拠点名	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(人文科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>人文諸領域の複合的な研究拠点として、歴史学、文学、哲学等の人文学と人類学との協業を進め、中国考古学及び東洋学に関する膨大なデータベースを保有・公開して多くの関連コミュニティへの共同利用に広く供するとともに、オンラインによる研究者及び一般国民向けのシンポジウム等の開催を通じた研究成果の積極的な発信や、当該分野における若手研究者育成にも努めていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、外部資金の更なる獲得に努めるとともに、共同利用・共同研究を通じて、大学院生の学位取得に向けた取組の強化や本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待される。</p>

通し番号	68
共同利用・共同研究拠点名	行動経済学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(社会経済研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>行動経済学に関する中核的拠点として、実験経済学を早期から実践し、著名な国際学術誌の編集や行動経済学の研究成果の国民への積極的な発信を行うとともに、外国人研究者の割合が高い国際的な研究教育環境を構築して、国際的な共同研究のハブとして機能していることは評価できる。</p> <p>一方で、中核研究者の異動によって、今後も本研究施設が当該分野における中核性を維持することができるか不明瞭となっている。</p> <p>今後は、行動経済学の普及に伴い、更に学際性や国際性を高めるために、行動マクロ経済学のアプローチを加える新たな展開において、実験室実験にとどまらず現場実験も必要と考えられ、その方法論の確立について更なる検討が期待されるとともに、今後の安定的な拠点運営を目指した人材の確保を含むネットワークの形成に向けた検討が期待される。</p>

通し番号	69
共同利用・共同研究拠点名	地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(東南アジア地域研究研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A-
評価コメント	<p>地域研究に関する情報資源を統合し通地域的な課題を研究する相関型地域研究を展開するとともに、所蔵資料を中心とした多様な地域情報資料のデジタル化及びデータベース公開や、地域に関する情報資源の共有化にも取り組んでおり、関連コミュニティに貢献していることは評価できる。</p> <p>一方で、科学研究費助成事業等の外部資金の獲得状況は拠点の規模に比して十分ではなく、また論文発表等の研究成果について人文・社会科学分野に偏りが見られる。</p> <p>今後は、同一研究施設の2拠点が統合した異分野融合系の共同利用・共同研究拠点として、他分野を含む関連研究者の参加を更に促進して関連コミュニティの拡大に努め、人文・社会科学分野にとどまらない幅広い分野にわたる研究活動への展開が求められるとともに、地域研究におけるデータ基盤の構築のみならず、共同利用・共同研究を通じた一層のデータ利活用を図るため、情報や工学分野の研究者の参画の一層の促進が求められる。</p>

通し番号	70
共同利用・共同研究拠点名	東南アジア研究の国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(東南アジア地域研究研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>東南アジア諸国との二国間交流に加え、東南アジア地域研究に強みを有する海外研究機関との交流等を通じて、当該分野におけるグローバルな学術ネットワークのハブとしての役割を果たすとともに、共同利用・共同研究課題の公募を全て国際公募とするなど国際的拠点としても関連コミュニティに貢献していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、同一研究施設の 2 拠点が統合した異分野融合系の共同利用・共同研究拠点として、他分野を含む関連研究者の参加を更に促進して関連コミュニティの拡大に努め、人文・社会科学分野にとどまらない幅広い分野にわたる研究活動への展開が期待されるとともに、外部資金も活用しつつ海外出版社からの研究書の刊行の増加に向けた取組の強化が期待される。</p>

通し番号	71
共同利用・共同研究拠点名	生体医歯工学共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京医科歯科大学(生体材料工学研究所【中核施設】) 東京工業大学(科学技術創成研究院未来産業技術研究所) 静岡大学(電子工学研究所) 広島大学(ナノデバイス・バイオ融合科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>理工学、医歯薬学及びバイオテクノロジーといった学際領域での基礎研究及び、研究成果の社会実装に向けた医工連携による応用研究について、各研究施設としての強み・特色を生かしつつ拠点ネットワーク内の密接な連携によって展開し、世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表を多数行うとともに、若手研究者育成のための実習等充実した取組を行っていることは、関連コミュニティへの多大な貢献を果たしており非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、各研究施設において外国人研究者や女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進するとともに、研究成果の更なる国際的な発信に向けた取組の強化が期待される。</p>

通し番号	72
共同利用・共同研究拠点名	低温プラズマ科学研究拠点
大学等名 (研究施設名)	名古屋大学(低温プラズマ科学研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>工学を中心とした医学、農学、理学等の多様な分野の研究者とともに多数の外国人研究者を擁し、プラズマ医療やプラズマバイオ等の学際領域の課題や産学連携に積極的に取り組むとともに、共同利用・共同研究を通じた優れた研究成果が上がっていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、科学研究費助成事業等の外部資金の獲得に一層努めることが期待されるとともに、女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進することが期待される。また、将来の学術研究の大型プロジェクトにつながるような関連コミュニティの更なる拡大に向けた取組も期待される。</p>

通し番号	73
共同利用・共同研究拠点名	放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	弘前大学(被ばく医療総合研究所) 福島大学(環境放射能研究所) 筑波大学(アイソトープ環境動態研究センター【中核施設】) 日本原子力研究開発機構(福島研究開発部門福島研究開発拠点廃炉環境国際共同研究センター【連携施設】) 量子科学技術研究開発機構(量子医学・医療部門高度被ばく医療センター福島再生支援研究部【連携施設】) 国立環境研究所(福島支部【連携施設】)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>放射線環境動態・影響評価に関する 6 研究施設で構成された連携ネットワーク型拠点として、分野融合型の新領域である放射能環境動態解析学における取組等を展開し、ネットワーク協働によるデータやサンプルのアーカイブ化の取組や若手研究者への重点支援の枠組みの設定を通じた積極的な共同利用・共同研究活動を展開するなど、関連コミュニティへの貢献を果たしていることは高く評価できる。</p> <p>今後は、ネットワークを構成する各研究施設の特徴を生かしながら、拠点ネットワーク全体としてのマネジメント及びガバナンス強化に留意しつつ、ネットワーク内及び関連コミュニティとの更なる連携を通じた異分野融合研究を一層推進することで、新たな学問領域やコミュニティの創出とともに優れた研究成果を上げることが期待される。</p>

通し番号	74
国際共同利用・共同研究拠点名	材料科学国際共同利用・共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東北大学(金属材料研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>材料科学分野の中核的拠点として、強磁場、材料照射施設等の大型施設の共同利用が活発に行われるとともに、国内研究者と海外研究者が共同するブリッジ型課題制度の創設やネットワークを生かした海外との連携強化を通じて、国際共著論文比率、TOP10%国際共著論文比率、国際共同研究数、海外研究者の受入れ数等が増加しており、更には大学院生の学位取得者の増加等の人材育成への貢献や産業界との連携も進展しており、当該分野における海外の代表的研究機関と遜色のない国際的な頭脳循環のハブとして機能していることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、引き続き外国人研究者及び女性研究者の登用等のダイバーシティの更なる推進や、更なる外部資金の獲得増加に向けた努力が期待される。</p>

通し番号	75
国際共同利用・共同研究拠点名	基礎・応用医科学の推進と先端医療の実現を目指した医科学国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(医科学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>医科学分野の中核的拠点として、疾患プロテオミクスラボラトリー一等の特色ある設備や資料を共同利用に供するとともに、多くの卓越した研究者を擁し、国際共著論文や TOP10%論文も非常に多く国際的に卓越した研究成果を上げており、更には附属病院との連携による先端研究の推進に取り組むなど、国際的に高い水準の研究の中核性を維持していることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、関連コミュニティに開かれた運営体制の強化や、コアラボラトリーの一層の充実、教員 1 人当たりの論文数の増加に資する取組の強化が期待される。</p>

通し番号	76
国際共同利用・共同研究拠点名	宇宙線国際研究拠点
大学等名 (研究施設名)	東京大学(宇宙線研究所)
評価区分 (期末評価結果)	S
評価コメント	<p>宇宙線物理学の中核的拠点として、数多くの海外研究者を含む学外研究者を受け入れて国際共同研究プロジェクトを遂行することで、世界水準の国際的な学術誌への多数の論文発表やTOP10%論文の割合が非常に高いなど国際的に通用する顕著な研究成果を上げており、更には外国人研究者担当の URA の増員や外国人客員研究者の雇用等の国際化に向けた体制も強化しており、国際的な共同利用・共同研究拠点として相応しい研究の中核性を有し、運営が行われていることは非常に高く評価できる。</p> <p>今後は、引き続き、女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進するとともに、教員 1 人当たりの研究費の増加等更なる外部資金獲得に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	77
国際共同利用・共同研究拠点名	化学関連分野の深化・連携を基軸とする先端・学際グローバル研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(化学研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>化学分野の中核的拠点として、施設・設備の稼働率が高く活発に共同利用が行われるとともに、海外ネットワークの強化等の国際的なハブ機能の拡充に積極的に努めることで国際共同研究の応募数・採択数が顕著に増加し、国際共著論文やTOP10%補正論文の割合も高く優れた研究成果を上げており、更に生命科学や物質材料等多岐にわたる分野との共同研究を実施して学際領域を開拓していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、PI等の女性研究者を増加させ研究者のダイバーシティを更に推進するとともに、人文・社会科学分野をはじめとした他分野との連携による異分野研究や研究成果の社会実装に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	78
国際共同利用・共同研究拠点名	数学・数理科学の国際共同研究拠点
大学等名 (研究施設名)	京都大学(数理解析研究所)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>数学・数理科学の中核的拠点として、教員 1 人当たりの論文数が非常に多く、また国際共著論文や TOP10%補正論文の割合も高く非常に優れた研究実績を上げることで国際的に評価されており、更に共同利用・共同研究活動においては多くの国内外の研究者が参加し、特に「訪問滞在型研究」の仕組みを通じて、若手研究者の独立性や研究時間を確保するなど次世代を担う若手研究者の養成を強化していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進するとともに、滞在型国際的拠点としての国際競争力の維持に必要な研究スペースの確保や当該分野の産学連携への進展に向けた取組が期待される。</p>

通し番号	79
国際共同利用・共同研究拠点名	国際サブアトム科学研究所
大学等名 (研究施設名)	大阪大学(核物理研究センター)
評価区分 (期末評価結果)	A
評価コメント	<p>原子核物理分野の中核的拠点として、固有の特徴を持った加速器をプラットフォームとしつつ、原子核物理だけでなく基礎研究から医学応用、半導体デバイス等の産業応用への展開も含めた独創的なアイデアにより幅広い共同利用・共同研究を行い、更に短寿命 RI の供給等の様々な形で関連コミュニティへ貢献するとともに、医学・理学の学内部局との連携による社会実装や若手研究者の海外展開も進展していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、女性研究者の増加等の研究者のダイバーシティを更に推進するとともに、安定的なポストでの若手研究者雇用促進に向けた検討や外部資金の更なる獲得についての積極的な取組が期待される。</p>

## 4. 審議経過

### (1) 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会 (第10期)の審議経過

#### ○第1回 令和元年5月20日(月)

- ・今後の共同利用・共同研究拠点の在り方について(拠点からのヒアリング等)  
\*ヒアリング発表:物質・デバイス領域共同研究拠点【ネットワーク型拠点】  
東京大学・物性研究所【プロジェクト連携】

#### ○第2回 令和元年11月26日(火)

- ・第4期中期目標期間開始に向けた国立大学の共同利用・共同研究拠点の制度の充実に向けて(国立大学の共同利用・共同研究拠点の評価の改善について等)

#### ○第3回 令和元年12月18日(水)

- ・第4期中期目標期間開始に向けた国立大学の共同利用・共同研究拠点の制度の充実に向けて(国立大学共同利用・共同研究拠点協議会からのヒアリング(評価の在り方、B区分の取扱い、人文・社会科学系の評価、評価調書様式等)に対する提案等)  
\*ヒアリング発表:国立大学共同利用・共同研究拠点協議会

#### ○第4回 令和2年2月12日(水)

- ・第4期中期目標期間開始に向けた国立大学の共同利用・共同研究拠点の制度の充実に向けて(認定・評価等に関する検討の基本的な方向性(たたき台)等)

#### ○第5回 令和2年4月17日(金)~23日(木)【書面審議】

- ・認定・評価に関する検討の基本的な方向性について<決定>

#### ○第6回 令和2年6月24日(水)【WEB会議】

- ・国立大学の共同利用・共同研究拠点の評価調書の見直しについて
- ・ネットワーク型共同利用・共同研究拠点の在り方について

#### ○第7回 令和2年7月22日(水)【WEB会議】

- ・ネットワーク型共同利用・共同研究拠点の在り方について
- ・人文・社会科学の特性を踏まえた期末評価等の在り方について  
\*ヒアリング発表:生体医歯工学共同研究拠点【ネットワーク型拠点】、  
国立大学附置研究所・センター会議第3部会【人文・社会科学系の評価】

#### ○第8回 令和2年8月24日(月)【WEB会議】

- ・ネットワーク型共同利用・共同研究拠点の在り方について
- ・国際共同利用・共同研究拠点の期末評価について<決定>
- ・第4期中期目標期間における共同利用・共同研究拠点の認定について<決定>

・国立大学の共同利用・共同研究拠点の評価調書の見直しについて

\*ヒアリング発表：放射線災害・医科学研究拠点【ネットワーク型拠点】

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点【ネットワーク型拠点】

**○第9回 令和2年11月25日（水）～12月2日（水）【書面審議】**

- ・ネットワーク型共同利用・共同研究拠点の在り方について<決定>
- ・国立大学における共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の第3期中期目標期間における期末評価要項について
- ・国立大学における共同利用・共同研究拠点の令和4年度からの新規認定に関する要項について

**○第10回 令和2年12月14日（月）【WEB会議】**

- ・国立大学における共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点の第3期中期目標期間における期末評価要項について<決定>
- ・国立大学における共同利用・共同研究拠点の令和4年度からの新規認定に関する要項について<決定>
  - ➡ 両要項を12月23日付けで決定し、各大学に対して文部科学省から通知（併せて文部科学省において説明会を実施）

**◇令和2年12月23日～令和3年2月26日**

各大学において期末評価用調書を作成・提出

**(2) 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会（第11期）の審議経過**

**○作業部会第1回 令和3年4月15日（木）【WEB会議・非公開】**

- ・期末評価及び新規認定評価の具体的な進め方について
- ・各分野の専門家（評価意見書作成候補者）の選出について

**◇令和3年4月20日～令和3年5月14日**

各委員による書面評価の実施

**◇令和3年4月30日～令和3年5月14日**

各評価意見書による評価意見書の作成

**○各専門委員会第1回、作業部会第2回 令和3年5月下旬～6月上旬【WEB会議・非公開】**

- ・書面評価結果に基づく合議評価の実施（ヒアリング評価対象の決定等）
  - 5月24日（月）異分野融合系専門委員会
  - 5月25日（火）理工学系（大型設備利用型）専門委員会
  - 5月26日（水）医学・生物学系（生物学系）専門委員会
  - 5月28日（金）人文・社会科学系専門委員会
  - 5月31日（月）医学・生物学系（医学系）専門委員会
  - 6月2日（水）理工学系（共同研究型）専門委員会
  - 6月4日（金）拠点作業部会（国際共同利用・共同研究拠点分）

◇令和3年6月4日以降、ヒアリング評価の実施日等に応じて随時

各大学においてヒアリングに当たっての説明資料及び説明動画の作成・提出

**○各専門委員会第2回、作業部会第3回 令和3年6月下旬～7月中旬【WEB会議・非公開】**

- ・ヒアリング評価の実施（評価結果案及び認定候補拠点案の決定）
  - 6月28日（月）医学・生物学系（生物学系）専門委員会
  - 6月30日（水）理工学系（共同研究型）専門委員会
  - 7月2日（金）理工学系（大型設備利用型）専門委員会
  - 7月6日（火）人文・社会科学系専門委員会
  - 7月8日（木）異分野融合系専門委員会
  - 7月12日（月）医学・生物学系（医学系）専門委員会
  - 7月15日（木）拠点作業部会（国際共同利用・共同研究拠点分）

**○作業部会第4回 令和3年10月4日（月）【WEB会議・非公開】**

- ・評価結果及び認定候補拠点の決定

◇令和3年10月上旬

文部科学省から各大学に対して評価内容の事実確認の実施

## 5. 委員等名簿

### 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会

#### 共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会（第10期）

##### 委員名簿

###### （委員）

- 小長谷 有紀 独立行政法人日本学術振興会監事  
観山 正見 広島大学学術・社会連携室特任教授

###### （臨時委員）

- 小林 良彰 慶応義塾大学 SDM 研究所上席研究員・名誉教授、  
ルーテル学院大学理事  
竹山 春子 早稲田大学理工学術院教授  
鍋倉 淳一 自然科学研究機構生理学研究所長

###### （専門委員）

- 安達 淳 情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長  
井上 邦雄 東北大学ニュートリノ科学研究センター長  
加藤 昌子 北海道大学大学院理学研究院教授  
竹田 秀 医療法人社団秀邦会理事長  
田島 文博 和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座教授  
◎ 八田 英二 学校法人同志社総長・理事長  
村上 泉 自然科学研究機構核融合科学研究所教授  
龍 有 二 北九州市立大学副学長

※「◎」印は主査、「○」印は主査代理  
（敬称略、50音順、所属及び職は第10期当時のもの）

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会

共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会（第11期）

委員名簿

（委員）

- 小長谷 有紀 独立行政法人日本学術振興会監事  
◎ 観山 正見 岐阜聖徳学園大学長

（臨時委員）

- 井上 邦雄 東北大学ニュートリノ科学研究センター長  
小林 良彰 慶応義塾大学 SDM 研究所上席研究員・名誉教授、  
ルーテル学院大学理事  
長谷部 光泰 自然科学研究機構基礎生物学研究所副所長・教授

（専門委員）

- 岩井 紀子 大阪商業大学 J G S S 研究センター長、総合経営学部  
教授  
加藤 昌子 関西学院大学生命環境学部教授  
河原林 健一 情報・システム研究機構国立情報学研究所情報学プリ  
ンシプル研究系教授  
幸谷 愛 東海大学医学部基盤診療学系先端医療科学教授  
竹田 秀 医療法人社団秀邦会理事長  
山田 弘司 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授  
龍 有 二 北九州市立大学副学長

※「◎」印は主査、「○」印は主査代理  
(敬称略、50音順)

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会  
共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会  
各専門委員会 委員名簿

【理工学系（大型設備利用型）専門委員会】

（臨時委員）

◎ 井 上 邦 雄 東北大学ニュートリノ科学研究センター長

（専門委員）

○ 河 野 健 国立研究開発法人海洋研究開発機構研究担当理事  
河 原 林 健 一 情報・システム研究機構国立情報学研究所情報学プ  
リンシプル研究系教授  
田 島 節 子 大阪大学名誉教授  
山 田 弘 司 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

【理工学系（共同研究型）専門委員会】

（委員）

○ 観 山 正 見 岐阜聖徳学園大学長

（専門委員）

加 藤 昌 子 関西学院大学生命環境学部教授  
高 梨 弘 毅 東北大学金属材料研究所教授  
田 近 英 一 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授  
◎ 龍 有 二 北九州市立大学副学長  
渡 辺 俊 樹 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究セ  
ンター長、教授

【医学・生物学系（医学系）専門委員会】

（専門委員）

○ 井 本 敬 二 自然科学研究機構理事  
金 澤 右 川崎医科大学総合医療センター特任教授  
川 口 寧 東京大学医科学研究所教授  
幸 谷 愛 東海大学医学部基盤診療学系先端医療科学教授  
佐々木 えりか 公益財団法人実験動物中央研究所マーモセット医学  
生物学研究部部長  
◎ 竹 田 秀 医療法人社団秀邦会理事長

※「◎」印は主査、「○」印は主査代理  
（敬称略、50音順）

## 【医学・生物学系（生物学系）専門委員会】

（臨時委員）

- ◎ 長谷部 光泰 自然科学研究機構基礎生物学研究所副所長・教授  
原田 尚美 海洋研究開発機構地球環境部門部門長

（専門委員）

- 井本 敬二 自然科学研究機構理事  
○ 塩見 美喜子 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻・教授  
中静 透 森林研究・整備機構理事長  
中村 紳一朗 麻布大学獣医学部教授

## 【人文・社会科学系専門委員会】

（委員）

- ◎ 小長谷 有紀 独立行政法人日本学術振興会監事

（臨時委員）

- 小林 良彰 慶応義塾大学 SDM 研究所上席研究員・名誉教授、ルーテル学院大学理事

（専門委員）

- 岩井 紀子 大阪商業大学 J G S S 研究センター長、総合経営学部教授  
大橋 弘 東京大学公共政策大学院院長、東京大学大学院経済学研究科教授  
野村 真理 金沢大学人間社会研究域名誉教授

## 【異分野融合系専門委員会】

（委員）

- ◎ 小長谷 有紀 独立行政法人日本学術振興会監事

（専門委員）

- 加藤 昌子 関西学院大学生命環境学部教授  
金澤 右 川崎医科大学総合医療センター特任教授  
河原林 健一 情報・システム研究機構国立情報学研究所情報学プリ  
ンシプル研究系教授  
厨川 常元 東北大学大学院工学研究科教授  
○ 龍 有二 北九州市立大学副学長  
渡辺 俊樹 名古屋大学大学院環境学研究科附属地震火山研究セ  
ンター長、教授

※「◎」印は主査、「○」印は主査代理  
（敬称略、50音順）

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会  
共同利用・共同研究拠点及び国際共同利用・共同研究拠点に関する作業部会  
評価意見書作成者名簿

栗飯原	周二	東京大学名誉教授
青木	茂樹	順天堂大学医学部教授
阿形	清和	自然科学研究機構基礎生物学研究所長
麻生	茂	久留米工業大学工学部特別教授
荒井	秀典	国立長寿医療研究センター理事長
荒川	泰彦	東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構特任教授
阿波賀	邦夫	名古屋大学大学院理学研究科教授
安藤	真	東京工業大学名誉教授
飯本	武志	東京大学環境安全本部教授
石川	哲也	理化学研究所放射光科学研究センター長
石川	義孝	帝京大学経済学部教授
石原	和弘	京都大学防災研究所名誉教授
一條	秀憲	東京大学大学院薬学系研究科教授
伊藤	公孝	中部大学先端研究センター 総長補佐・特任教授
伊藤	幸成	大阪大学大学院理学研究科特任教授
乾	晴行	京都大学大学院工学研究科教授
岩井	一宏	京都大学大学院医学研究科長・教授
岩永	史朗	大阪大学微生物病研究所教授
岩間	厚志	東京大学医科学研究所教授
印東	道子	人間文化研究機構国立民族学博物館名誉教授
上野	直人	自然科学研究機構基礎生物学研究所教授
占部	城太郎	東北大学大学院生命科学系研究科教授
浦本	直彦	株式会社三菱ケミカルホールディングス先端技術・事業開発室執行役員チーフデジタルオフィサー
漆谷	重雄	情報・システム研究機構国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授
延與	秀人	理化学研究所仁科加速器センター理研BNL研究センター長
大石	和徳	富山県衛生研究所長
大黒	俊哉	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
大谷	栄治	東北大学大学院理学研究科客員研究者・名誉教授
大西	立顕	立教大学大学院人工知能科学研究科教授

岡崎	哲二	東京大学大学院経済学研究科教授
岡部	貴美子	森林研究・整備機構森林総合研究所生物多様性・気候変動研究拠点長
岡部	信彦	川崎市健康安全研究所長
小川	雄一	自然科学研究機構監事
掛下	知行	福井工業大学長
片岡	一則	川崎市産業振興財団副理事長・ナノ医療イノベーションセンター長
金子	修	自然科学研究機構理事
上村	みどり	帝人ファーマ株式会社生物医学総合研究所上席研究員
河合	誠之	東京工業大学理学院教授
川合	真紀	自然科学研究機構分子科学研究所長
河岡	義裕	東京大学医科学研究所特任教授
河上	裕	国際医療福祉大学医学部免疫学教授
河口	信夫	名古屋大学未来社会創造機構教授
川崎	雅司	東京大学大学院工学系研究科教授
川島	俊郎	食肉科学技術研究所理事長
神田	穰太	東京海洋大学学術研究院教授
神取	秀樹	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
岸田	光代	熊本大学大学院先端科学研究部教授
北	潔	長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長・教授
絹谷	清剛	金沢大学医薬保健研究域医学系教授
久保	千春	中村学園大学長
久保	川厚	北海道大学大学院地球環境科学研究院特任教授
黒田	真也	東京大学大学院理学系研究科教授
小池	俊雄	土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター長
腰原	伸也	東京工業大学理学院教授
小谷	元子	東北大学材料科学高等研究所教授
小松	和彦	人間文化研究機構国際日本文化研究センター名誉教授
小松	久男	東洋文庫研究部専任研究員
近藤	昭彦	神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科長・教授
近藤	隆	富山大学 学術研究部（医学系）特別研究教授
三枝	信子	情報・システム研究機構国立環境研究所地球システム領域長
齊藤	直人	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所長
齋藤	理一郎	東北大学大学院理学研究科教授

酒井	伸一	京都高度技術研究所副所長、京都大学名誉教授
酒井	啓子	千葉大学大学院社会科学研究院教授
笹尾	登	岡山大学異分野基礎科学研究所特任教授
佐藤	知久	京都市立芸術大学芸術資源研究センター教授
佐藤	矩行	沖縄科学技術大学院大学マリングエノミックス・ユニット教授
佐藤	裕	東北大学大学院工学研究科教授
佐藤	嘉倫	京都先端科学大学人文科学部教授、東北大学大学院文学研究科教授
鮫島	正浩	信州大学工学部特任教授
佐谷	秀行	慶應義塾大学医学部教授
澤辺	智雄	北海道大学大学院水産科学研究院教授
塩路	悦朗	一橋大学大学院経済学研究科教授
篠崎	一雄	理化学研究所環境資源科学研究センター特別顧問
島	伸和	神戸大学大学院理学研究科教授
白石	賢二	名古屋大学未来材料・システム研究所教授
白谷	正治	九州大学大学院システム情報科学研究院教授
白土	博樹	北海道大学大学院医学研究院教授
新海	征治	九州大学高等研究院特別主幹教授
末廣	昭	東京大学名誉教授
杉本	幸裕	神戸大学大学院農学研究科教授
杉山	直	名古屋大学大学院理学研究科教授・副総長
鈴木	厚人	岩手県立大学長
鈴木	英之	東京大学大学院工学系研究科教授
住吉	孝行	高エネルギー加速器研究機構監事
関水	和久	帝京大学薬学部特任教授
瀬谷	司	青森大学ねぶた健康研究所長・教授
園田	直子	人間文化研究機構国立民族学博物館人類基礎理論研究部教授
高木	浩一	岩手大学理工学部教授
高倉	浩樹	東北大学東北アジア研究センター教授
高田	昌彦	京都大学霊長類研究所教授
高津	聖志	富山県薬事総合研究開発センター所長
高橋	淑子	京都大学大学院理学研究科教授
高柳	広	東京大学大学院医学系研究科教授
寶	馨	京都大学総合生存学館教授
武内	和彦	東京大学未来ビジョン研究センター特任教授

武田	全康	日本原子力研究開発機構物質科学研究センター一長
田島	宏康	名古屋大学宇宙地球環境研究所教授
辰巳	敬	東京工業大学名誉教授
田中	啓二	東京都医学総合研究所理事長
田中	啓治	理化学研究所脳神経科学研究センター特別顧問
田中	功	京都大学大学院工学研究科教授
陀安	一郎	人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究基盤国際センター教授
丹下	健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
茶谷	直人	大阪大学大学院工学研究科教授
塚原	東吾	神戸大学大学院国際文化学研究科教授
津田	敏隆	情報・システム研究機構理事
土山	明	立命館大学総合科学技術研究機構招聘研究員・教授
坪井	俊	武蔵野大学工学部特任教授
寺澤	敏夫	東京大学宇宙線研究所名誉教授
寺嶋	正秀	京都大学大学院理学研究科教授
堂免	一成	信州大学先鋭材料研究所特別特任教授、東京大学特別教授室特別教授
十倉	好紀	理化学研究所創発物性科学研究センター一長
年吉	洋	東京大学生産技術研究所教授
内藤	哲	北海道大学名誉教授
永井	隆哉	北海道大学大学院理学研究院教授
永江	知文	京都大学大学院理学研究科教授
永長	直人	東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻教授
中垣	隆雄	早稲田大学理工学術院教授
中釜	斉	国立がん研究センター理事長
永田	恭介	筑波大学長
中西	友子	星薬科大学長
中野	隆史	量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門長
中畑	雅行	東京大学宇宙線研究所教授
中村	卓史	京都大学大学院理学研究科名誉教授
中山	裕之	VISION VETS GROUP Lab センター一長
鍋倉	淳一	自然科学研究機構生理学研究所長
鍋島	陽一	神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター一長
西浦	康政	北海道大学電子科学研究科名誉教授

西嶋	恭司	東海大学理学部教授
西谷	和彦	神奈川大学理学部教授
西出	宏之	早稲田大学理工学術院招聘研究教授
西村	浩一	名古屋大学名誉教授
西脇	亜也	宮崎大学大学院農学工学総合研究科長・農学部附属フィールド科学 学研究センター教授
野田	進	京都大学大学院工学研究科教授
長谷川	眞理子	総合研究大学院大学長
畠山	史郎	日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター所長
花輪	公雄	山形大学理事・副学長
羽森	茂之	神戸大学大学院経済学研究科教授
林	良博	国立科学博物館顧問
東田	賢二	九州大学鉄鋼リサーチセンター特任教授、名誉教授
深尾	良夫	海洋研究開発機構海域地震火山部門特任上席研究員
福山	秀敏	東京理科大学理事長補佐
藤井	孝藏	東京理科大学工学部教授
藤井	讓治	京都大学名誉教授
藤田	耕史	名古屋大学大学院環境学研究科教授
藤田	昌久	京都大学経済研究所特任教授
寶迫	巖	情報通信研究機構 Beyond 5G 研究開発推進ユニット長・テラヘル ツ研究センター長
宝野	和博	物質・材料研究機構理事
堀	宗朗	海洋研究開発機構付加価値情報創生部門長
堀内	基広	北海道大学大学院獣医学研究院教授
前島	正義	中部大学応用生物学部教授
牧野	淳一郎	神戸大学大学院理学研究科教授
正木	隆	森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員
松井	彰彦	東京大学大学院経済学研究科教授
松岡	聡	理化学研究所計算科学研究センター長
松澤	暢	東北大学大学院理学研究科教授
松澤	佑次	住友病院名誉院長・最高顧問
松島	斉	東京大学大学院経済学研究科教授
松田	裕之	横浜国立大学環境情報研究院教授
松村	幸彦	広島大学大学院先進理工系科学研究科教授
松本	和也	近畿大学生物理工学部大学院部長・教授

丸山	茂夫	東京大学大学院工学系研究科教授
水澤	英洋	国立精神・神経医療研究センター理事長特任補佐・名誉理事長
水島	昇	東京大学大学院医学系研究科教授
水谷	法美	名古屋大学大学院工学研究科教授
水野	貴之	情報・システム研究機構国立情報学研究所情報社会相関研究系准教授
道奥	康治	法政大学デザイン工学部教授
光山	正雄	京都大学名誉教授
南澤	究	東北大学大学院生命科学研究科特任教授
南野	徹	順天堂大学大学院医学研究科教授
箕越	靖彦	自然科学研究機構生理学研究所生殖・内分泌系発達機構研究部門教授
三村	信男	茨城大学地球・地域環境共創機構特命教授・名誉教授
宮川	清	東京大学大学院医学研究科教授
宮川	恒	京都大学大学院農学研究科教授
三宅	健介	東京大学医科学研究所教授
宮園	浩平	東京大学大学院医学系研究科教授
村井	章介	東洋文庫研究員
室崎	益輝	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授
森	和俊	京都大学大学院理学研究科教授
森	重文	京都大学高等研究院長・特別教授
森	康子	神戸大学大学院医学研究科教授
安浦	寛人	情報・システム研究機構国立情報学研究所特任教授
矢野	桂司	立命館大学文学部教授
山野	博哉	国立環境研究所生物多様性領域長
山本	一彦	理化学研究所生命医科学研究センター長
山本	雅之	東北大学大学院医学系研究科教授
塚本	尚義	北海道大学大学院理学研究院教授
吉川	洋	立正大学長・経済学部・教授
吉田	憲司	人間文化研究機構国立民族学博物館長
吉田	善章	自然科学研究機構核融合科学研究所長
吉森	保	大阪大学大学院生命機能研究科教授
米田	穰	東京大学総合研究博物館教授
米田	悦啓	医薬基盤・健康・栄養研究所理事長
渡辺	幸三	愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授

渡 部	潤 一	自然科学研究機構国立天文台上席教授
渡 邊	勉	関西学院大学社会学部教授
渡 辺	恭 良	理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー

(敬称略、50音順)